

時空の漂泊

(二〇一一年三月八日 第五十四号)

高橋 滋

広島・里山便り (二)

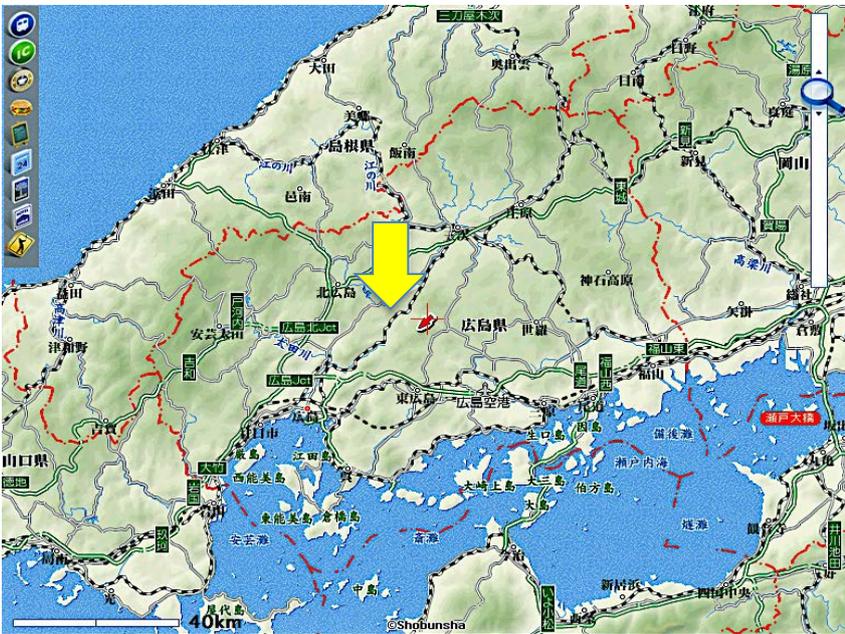
山歩きにせよ、自然観察にせよ、地形は基本事項であり、その説明は欠かせない。しかし、不慣れなもので、ついつい後回しになってしまった。

吉備高原面

広島県の中央部にあたる福富町（東広島市）にある鷹ノ巣山（九二二㍎）の頂上から東の方向を眺めると、地平線に大きな山はなく、平坦な土地が連なっている。地理の教科書で吉備高原面と呼ばれる台地で、ここはまさに中国準平原であり、準平原にある起伏を指す「侵食小起伏面」という表

現どおりの地形である。

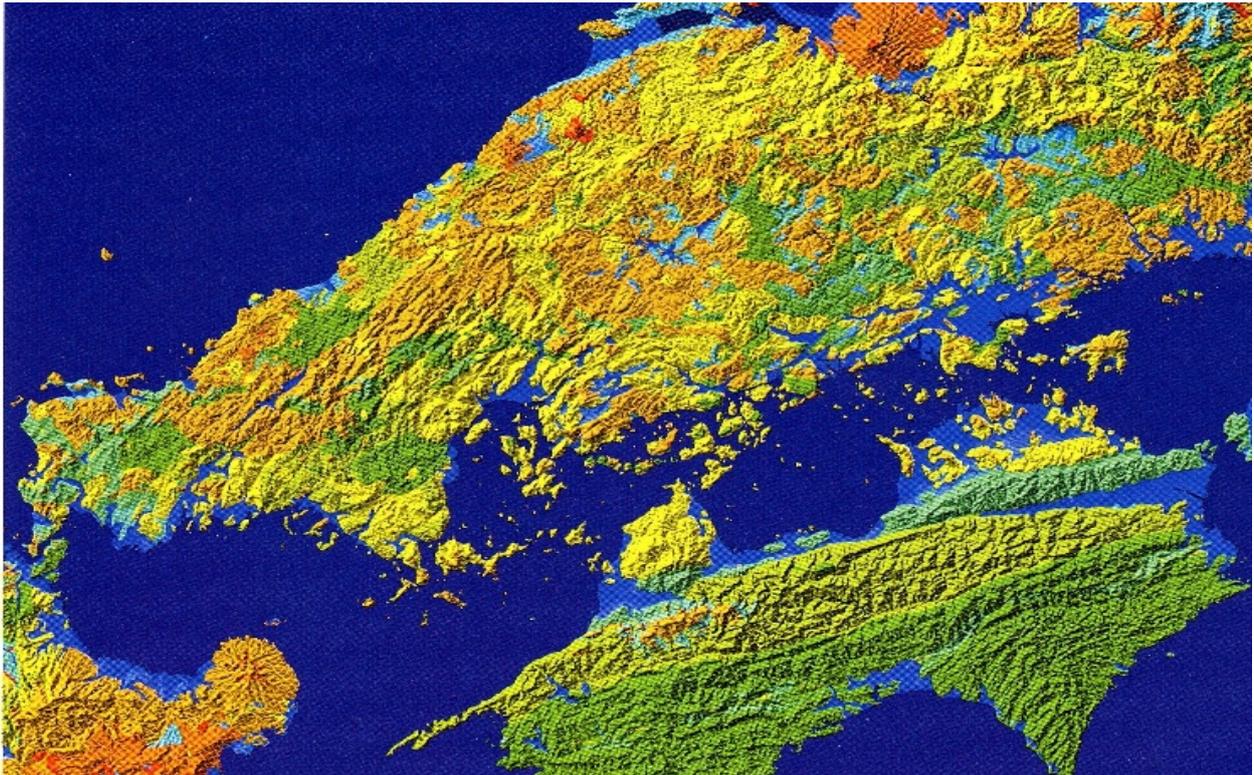
昨年来紹介してきたフィールドとはかなり趣が異なる、しかも不慣れな話であるが、ご了承願いたい。



下の衛星写真（「日本の地形、東京大学出版会」）に見られる通り、広島湾の西側、広島県の東部から山口県にかけて、北東から南西の方向に直線状の谷が平行していくつも走っている。

谷のピッチは五〜六キロ程度で、中国地方の他のところに、このような規則性があるところはみあたらない。

素人考えで、このでこぼこは、この山列に直角方向から力が加わって波板状になってきたのだろうと思ったら、地殻の変形はもっととスケールが大きいらしい。



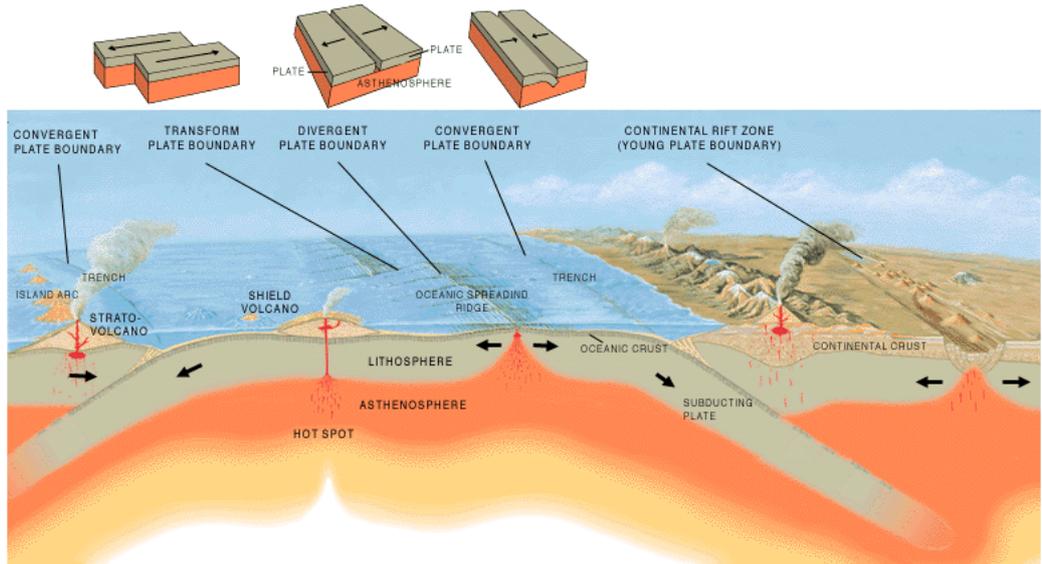
日本列島の誕生

自分がこれまで知らなかったことにいろいろ驚かされる。頻繁に出てくる「プレートテクトニクス」の意味も知らなかった。「秋吉台あきよしだいの石灰岩は、太平洋の真ん中から運ばれて来た」ものだとの説明には、ただただあぜん咄然とした。

日本列島は、もとは大陸の一部で、沈み込む海洋プレートで掻き取られた様々な時代の地層を横方向に積み重ね、二〇〇〇万年前から一五〇〇万年前にかけて日本海を広げる形で、島とうこ（島弧）になったらしい。

二〇〇万年前にほぼ今の形になってから、中国地方は南北の力を受け、全体がゆるやかに曲降・隆起し、瀬戸内海は沈降し、その後、東西の力を受け、山列部分が「雁行状に断層を起こした」と説明されていた。

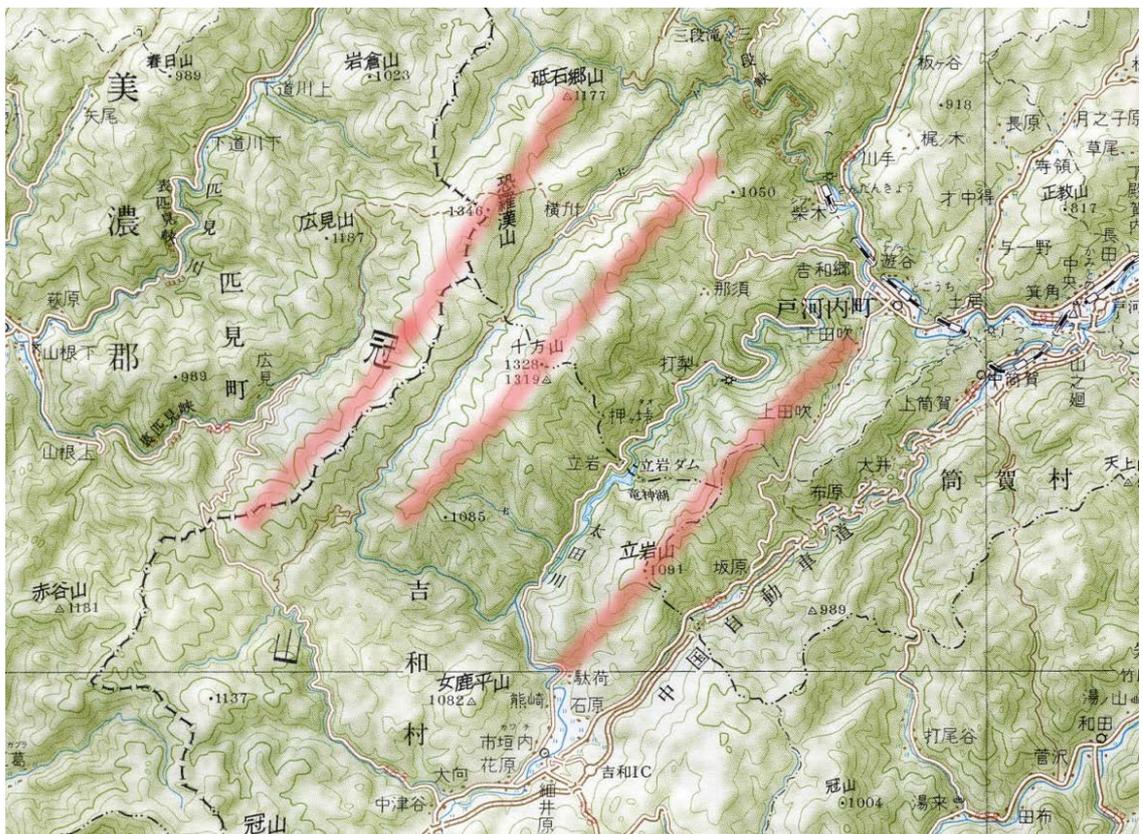
日本列島は、もとは大陸の一部で、沈み込む海洋プレートで掻き取られた様々な時代の地層を横方向に積み重ね、二〇〇〇万



年前から一五〇〇万年前にかけて日本海を広げる形で、島（島弧）になったらしい。二〇〇万年前にはほぼ今の形になってから、中国地方は南北の力を受け、全体がゆるやかに曲降・隆起し、瀬戸内海は沈降し、その後、東西の力を受け、山列部分が「雁行状に断層を起こした」と説明されていた。

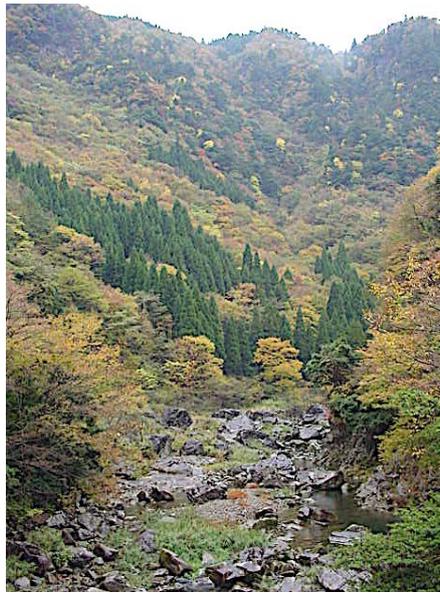
やや古いが、二十万分の一の地図を見ると、このあたりが理解できる。

一番高度のある山列（昨年紹介した恐羅漢山のある列：上図の三列の左端）が西中国山地の脊梁である。



「押ヶ峠断層帯」

この山列の隣、十方山のある真ん中の山列の南の麓に、「押ヶ峠」(“たお”は広島弁で峠の意味)という地名が見える。ここに五万分の一の地図では「押ヶ峠断層帯」と記載されている。



調べると、この断層帯は国の天然記念物で、昭和四十年(一九六五年)に指定された時は、断層としては日本では初めてだった、とあった。

押ヶ峠の断層は、上下方向の断層(逆断層)であるという。圧縮力により、地盤面が上に乗り上がる形になる。断層面は急な崖になり、低くなったところは川になり、侵食が進む。山は徐々に壁状になり、谷はV字型の谷になる。

ここは何度か走ったことがあるが、実際、そのような地形になっている。

三頁の地図に記載されている通り、立岩山のある山列に沿って、その南側に中国自動車道が通る広い大きな谷がある。これは「冠山断層」と呼ばれていて、この谷筋は北に伸びて太田川の一部となり、また山口県の方に下がると大きな溪谷になっていて、「非常に大規模な断層だったのだな」と実感させるスケールを持っている。

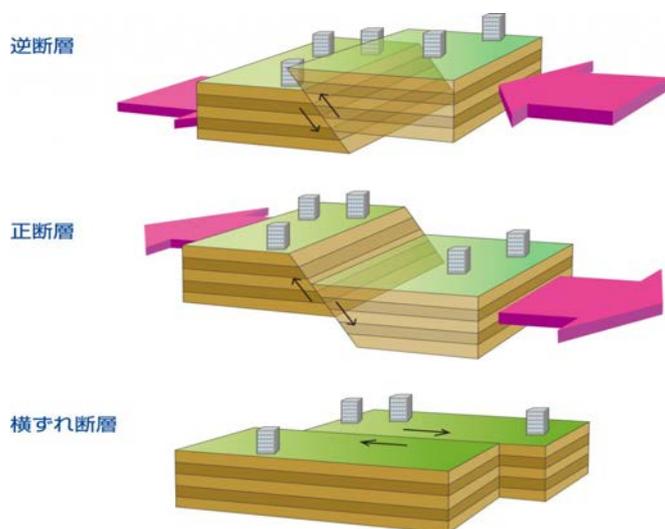


図1 断層のタイプ

広島から直線距離で約三十キロしか離れてないが、昨年報告した通り、ブナやミズナラ(水楢)が育ち、冬は雪が積もってスキー場となる。オオヤマレンゲ(大山蓮華)やカタクリ(片栗)が見られるのもこの山塊である。

冠高原

冠山の肩の部分に冠高原という高度約八百mの平坦地がある。(地図からは少し外れる。)ここは蝶類が豊富で、かつてはゼフィルス(森林に棲息するシジミチョウ類)の宝庫と呼ばれた。



古い写真を整理し、二〇〇三年に撮った一枚の写真を見つけた。捕虫網で採ったので人には見せられないと放っておいたらしい。改めて確認すると、ウラムスジシジミ(裏三條蛭)という比較的珍しいものであり、自分でも驚いた。

私は中学生の頃、昆虫少年で、冬季に蝶の卵を採集するために信州や上州の山に出かけたが、しなのおいわけ信濃追分という所がとりわけ記憶に残っている。ここは関東平野(高崎あたり)から見ると信州の高みにつながる入り口であり、平坦な高原性を持ちながら、ふもと浅間山の麓という山岳性も持っている。

しなのおいわけその信濃追分と、蝶の種類といい、景観といい、冠高原は似たところがある。そう言えば、かつて冠山の麓の吉和は、温泉もスキー場もある別荘地で、「西の軽井沢」という打ち出しをしていた。この山列は広島

市北西側の裏山まで連続している。広島

市側から見ると、はつきりとした山脈であり、標高五百m弱だが、広島の南アルプスという人もいる。両端は平地で、縦走は一日がかりとなる。

その隣は、極楽寺山六九七m、窓ヶ山七一一mなどのある山列で、宮島から本土を見た時、写真の通り、壁のように見える山脈の一部である。

里山の整備を行っているところとして紹介した湯来町ゆきの峠地区は、この山列の向こう側の斜面にある。陸軍省の標石があったのも、この山列である。





極楽寺山で、数年前に、広島県では準絶滅危惧種に選定されているギフチョウ（岐阜蝶）を見たことがある。ギフチョウは、カンアオイ（寒葵）類（サンヨウアオイ 山陽葵）を食草としている。この植物が育つ環境……年間を通してやや薄暗く、春先は陽が射す所が維持されないと、ギフチョウは

消滅してしまう。この植物が育つ、そういう自然が残っている所である。

広島島の裏山の山列とこの極楽寺の山列には、活断層が確認されている。活断層というのは、地質学的にごく最近まで（過去数十万年程度？）に活動があったことがはっきりとしている断層であり、一つ一つ名前がつけられ、推定される地震の規模、発生サイクルが公表されている（証明のためにはトレンチを掘るなどかなりのエネルギーを要するらしい）。

この地域での活断層の基本は横ずれとさされているが、押ヶ峠おうけたおと同じく、上下に大きくずれたのではなからうか。平坦部から頂上を見上げる勾配は直線二・五キロに対して六〇〇mほど上がるもので、押ヶ峠おうけたおの谷から十方山の山列を見上げる時とほぼ同じである。

極楽寺の山列と岩立山の山列の間に、二本の大きな山列がある。両方とも標高一〇〇〇m程度で、広島市内では最も高い地点である。大峯山（一〇四〇m）、東郷山（九七七m）は遠目で分かる山容を持っており、ファンが多い。頂上部にはブナが少し残っている。

この二本の大きな山列の間は谷底が深く下がり、鋭いV字谷になっている。川は水内川みのち。太田川支流としては、最もパワーがあるのではないだろうか。流域に湯ノ山温泉 や湯来温泉ゆきおんせん があり、キブシ（木五倍子）のあった石ヶ谷峡など渓谷も多い。

この谷筋の線を東南側に伸ばしてゆくと、高みを越えて小瀬川（広島山口県境の一級河川）の水系に入る。谷筋を出ると、やや平坦なエリアに入る。旧佐伯

町の中心部で、ここに津田の園地（佐伯ガーデン）がある。津田には地域気象観測システム・アメダス（Automated Meteorological Data Acquisition System）の観測機があるが、その標高は三一七mとなっている。

ここから冠高原までは走り易い県道一本で、約二十分（十五キロ程度）である。

以上、拙い説明であるが、お分かり頂けたでしょうか。

これまで「準平原のなかの畝のよなもの」と表現してきた谷筋であり山列なのだが、改めて教科書を読み、地図を追いかけると、相当激しい断層地形であることは分かった。昨年来紹介してきた蝶や樹木にはかなりの多様性が見られたが、それは、この地形の変化の大きさに負うところが大きいのだらうと思う。

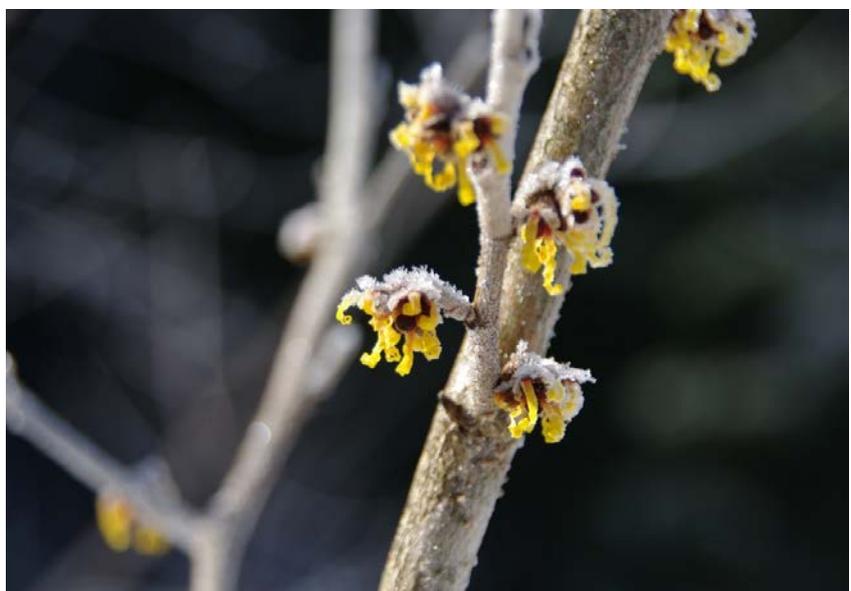
春は黄色から

昨年の夏暑かったので日本海の温度が高くなっており、今年の冬は雪が多いのではという予想があった。その予想は当たったが、一、二月の気温の低さは想定外だった。

廿日市津田では、最低気温がマイナス八度を切る日が五日もあった。そのうちの一日はマイナス一〇・一度だった。それでも一週から十日遅れで、春の気配が迫ってきた。

春先の樹木の花は黄色が多い、とかねがね思っている。昨年紹介したマンサク（万作）、キブシ（木五倍子）の他にも、トサミズキ（土佐水木）、シキミ（檜）、ロウバイ（蠟梅）、オウバイ（黄梅）、レンギョウ（連翹）など枚挙にいとまがない。

佐伯に植えてあるマンサク（万作）はとりわけ開花が早い。一月末には蕾がほころ



び始め、二月初めには咲き始める。岡山県北部の石灰岩地帯に固有のアテツマンサク（阿哲万作）の系列と聞いていたが、花が大きく、黄色が濃く、萼にやや赤みのある特徴からすると、シナマンサク（支那万作）のようだった。



もう一つ種類がハッキリしないのがミズキ（水木）である。三月頃、山間部を走ると、キブシとともにぱつと目に入ってくる。トサミズキ（土佐水木）かと思ったのだが、調べたら、その分布範囲はあまり広くなく、どうも見るのはコウヤミズキ（高野水木）らしい。



シキミ（檜）もかなり派手な花を咲かせる。なかなか目にしないが、一旦ありかを知ると咲くのが待ち遠しくなる花である。シキミは仏前の木とされて、一般的にはあまり好まれないようなのだが……………。



サンシユユ（山茱萸）は、子供の頃に住んでいた世田谷区の家庭にかなり大きな木、と言っても株立ちで背は高くないが、二本あった。昭和十年頃の植栽だろう。江戸時代中期に多摩地方で新田開発の褒美にサンシユユ（山茱萸）の苗木が名主に

下付された（草木花歳時記、朝日文庫）とある。

日本に導入された直後のことであり、貴重品であったのかもしれない。世田谷は荏原郡で、多摩ではなかったが、大きな農家の多かったところで、この故事に絡んでいたのかもしれない。

実家では、この樹をずっとマンサク（万作）と呼んでいたが、大学時代に小石川植物園でサンシユ（山茱萸）であると知った。黄色がとりわけ鮮明で、花の粒もしっかりとしていて、春先らしい花である。春黄金花（はるこがねばな）という別名が本当にふさわしい花木だと思う。

桜の頃には、山間部の集落でミツマタ（三極）が見られる。これも中国から渡来したものがある。室町時代に紙の原料として入ったということ、すでに、その役割は終わ

っているのだが、その柔らかい姿が好まれて生き残ったのだろう。



「春は黄色から」は万国共通のようである。

イギリスのガーデン雑誌にミツマタなどの記述があったことを思い出して探したところ、ミツマタとマンサクが春先の花木として紹介してあった。

Plate tectonics プレート理論とも言う。
一九六〇年代後半以降に発展した地球科学の学説。地球の表面は厚さ約一〇〇kmの何枚かの岩板(プレート)で構成されており、このプレートが、長い時間単位で見れば流動性を持っていて対流しているマントル(外套)と呼ばれる岩石に乗って動いている。大局的なプレートの動きは球面上の幾何学で説明される。プレート境界部では造山運動や火山活動などの地殻変動が起こる。

http://www.bunka.go.jp/bss/main/contents.asp?register_id=401&item_id=2339

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

http://www.yasashi.info/o_00025.html

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://www.insects.jp/foku2-6.htm>

<http://www.weblio.jp/content/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://www3.ocn.ne.jp/~gifuchou/>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

http://hanamist.sakura.ne.jp/flower/riben_yumazuru_sanyo.html

<http://www.yunoyama-onsen.com/oyado/>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://www.geocities.jp/greens88/jumoku-zz-tosamizuki.htm>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://www.geocities.jp/greens88/jumoku-zz-tosamizuki.htm>

<http://www.geocities.jp/greens88/jumoku-zz-tosamizuki.htm>

PLANT SWATCH
SCENTED SHRUBS



Golden aromas

Old favourites or something a bit different - mix and match some of these sunny fragrant winter-flowering shrubs

Edgeworthia

Related to the daphne family, *Edgeworthia chrysantha* (top left) is a lovely medium-sized deciduous shrub that starts flowering towards the end of winter. The yellow tubular flowers are covered with fine white hairs and appear on bare stems. The 'X factor' is the scent - reminiscent of cloves. Height: 1.5m. Spread: 1.5m.

GROWING CONDITIONS

Prefers a frost-free location, so the protection of a wall or greenhouse is necessary in cold areas. Soil should be fertile and well drained.

WHERE TO BUY

Larch Cottage Nurseries, Melkthorpe, Penrith, Cumbria CA10 2DR. Tel: +44 (0)1931 712404. www.larchcottage.co.uk or PMA Plants, Lower Mead, West Hatch, Taunton, Somerset TA3 5RN. Tel: +44 (0)1823 480774. www.junker.co.uk

Coronilla

It's always good to have a few evergreens in the winter border and *Coronilla valentina* subsp. *glauca* (above left) has several things going for it - a compact shape, a rounded mass of bluey-green foliage and fragrant bright yellow flowers. Being from the legume family, it has a characteristic pea flower and the added bonus of blooming in the darkest days of winter, and then again with a second flowering in summer.

GROWING CONDITIONS

Height: 80cm. Spread: 80cm. This shrub is fully frost hardy - give it some sun and well-drained soil and it will shine.

WHERE TO BUY

Wisley Plant Centre, RHS Wisley, Woking, Surrey GU23 6QB. Tel: +44 (0)1483 211113. Online sales at www.rhs.org.uk/wisleyplantcentre

Hamamelis

The original Chinese witch hazel *Hamamelis mollis* (above right) is still a winter-garden favourite despite the vast array of other colours and varieties available - it is also considerably less expensive than the named varieties. The spidery flowers, which give off a wonderful scent, magically appear on totally bare branches.

GROWING CONDITIONS

Give the somewhat unruly branches plenty of room to grow and plant in a sunny or partly shaded border. Witch hazels are tolerant of most soil types.

WHERE TO BUY

Widely available at garden centres and nurseries or try Coblands by telephone: +44 (0)1732 350517 or online at www.best4plants.co.uk

http://www.geocities.jp/ir50_kjmt/kgf/sinamnsk.htm

<http://www.geocities.jp/greens88/jumoku-zz-tosamizuki.htm>

<http://wandermountain.fc2web.com/kouyamanizuki.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%A9>

<http://www.e-yakusou.com/sou/sou229.htm>